

中世長崎の基礎的研究

外山幹夫著

思文閣出版

前 言

長崎県域は、対馬国・壱岐国、および肥前国西南部からなるもので、著しく広域散在的、かつ複雑多様な性格を帯びている。

本書は、このうち肥前国西南部の松浦郡まつら・高来郡たかき・彼杵郡そのぎの三郡に関わる問題を扱おうとするものである。そこには、それぞれ独自の歴史が展開しているからである。ここでは、松浦郡で三、高来郡で二、彼杵郡で三の計八編の論考で構成することとなった。次にその内容の概要を示そう。

第一部松浦郡の第一章は、松浦氏の出自と党的性格をみたものである。松浦氏の出自については、安倍宗任末孫説と嵯峨天皇末孫説の二つがある。この両説について検討する。次にその党としての独自性、鎌倉幕府との関係についてみようとする。

第二章は、松浦党の一揆契諾状と、押書・契約状についてみようとするもの。松浦党では、下松浦在住の者を中心に一揆契諾状・押書・契約状が結ばれた。本章はその性格を明らかにしようとした。

第三章松浦氏の領国支配は、松浦党諸氏のうち平戸を基盤とする平戸氏が、戦国後期松浦隆信の時代、戦国大名へと急成長する過程を追った。ここではその戦国家法、老中の性格、家臣団、城下町と特権商人、南蛮貿易とキリスト教等の点についてみようと思う。

第二部高来郡のうち、第一章は、肥前国高来東郷・高来西郷と高来一揆についてみようとする。まず高来郡に

代わり高来東郷・高来西郷という称呼が用いられた意味、さらに高来一揆の性格を検討する。

第二章では有馬氏の領国支配を扱う。高来郡南部の地頭領主に過ぎなかつた有間（のち有馬）氏は、戦国初期に戦国大名へと急成長する。そして晴純（仙岩）の天文年間肥前守護職を得て、肥前最大の大名へと成長する。

ところがその子義直（のち義貞）の時代以後、佐賀の龍造寺隆信に圧迫され衰退に向かい、晴信の時、壊滅に瀕する。しかし、島津氏やイエズス会によって救われる。その領国支配について、老職、直轄地の性格を検討する。また島原氏・西郷氏等の有力家臣の統轄の問題、居城日野江城と原城との関係、さらに有馬氏の多頭政治、大村氏領への宗主権等についてみる。

第三部彼杵郡の第一章においては、平安末・鎌倉期の長崎ではまず彼杵荘・伊佐早荘が成立すること、さらに平安末に武士が登場することをみる。ここでは多治比一族の戸町氏・永埼（長崎）氏、および福田氏が成立する。一方、上総国御家人深堀氏が戸町浦に移住し、在地領主と対立・抗争する。この状況と、自身の領主制の問題をみる。

また元寇に際して福田兼重・兼光親子の博多・肥前鷹島への出陣・軍功は、史料の乏しいこの種の状況をリアルに示すものといえる。

第二章では南北朝・室町期の長崎について、まず建武政権下に入ってから以後、治安の乱れとそれによる混乱が頻発する実態をみる。

またこの時期、動乱の勃発による南北両勢力の出陣・抗争が頻発する。この間惣領制の崩壊によって、惣領が一族を催して出陣する動きが崩れ、庶子が惣領に替って一族を催し出陣する状況が展開する。北朝側の焦りが認められる。

次に、彼杵郡の国人・土豪等によって結成される彼杵一揆をとりあげる。この中に現在の長崎地域の者も加盟

する。その動向を検討する。

第三章は戦国期の長崎をみる。まず長崎の領主長崎純景の性格と居城・城下町をみる。純景は深堀氏の攻撃に対処するため大村純忠に臣従するが、そのことがもたらした影響をみる。

次に長崎港が南蛮貿易港として出直し、亡命キリシタン等の流入により人口が急増する状況を検する。ここに新たに島原町・大村町等六か町が成立し、これが近世長崎の原型を形成する。その城塞都市への発展をみる。

次いで長崎の教会領化や、有馬・島津両氏の介入、大村純忠の動向をみる。以上が、本書で取扱おうとすることの概要である。

前言

第一部 肥前国松浦郡

第一章 松浦氏の出自とその党的性格

はじめに…………… 3

第一節 出自と発展…………… 3

(1) 出自について 3

(2) 領主的発展 9

第二節 松浦党の性格…………… 14

(1) 首長の欠如 14

(2) 血縁集団から地縁集団へ 18

(3) 惣領制崩壊の実態 20

第三節 党の性格と鎌倉幕府…………… 21

(1) 豊後大神氏の実態 21

(2) 鎌倉幕府と松浦党 25
おわりに…………… 27

第二章 松浦党の一揆契諾状と押書・契約状

はじめに…………… 31

第一節 党の拡大と上・下松浦党…………… 31

(1) 惣領の不在 31

(2) 上・下松浦党 32

第二節 一揆契諾状の作成…………… 35

(1) 一揆契諾状作成の過程 35

(2) 九通の「一揆契諾状」 36

(3) 特色ある三通の「一揆契諾状」 38

第三節 大一揆と小一揆…………… 46

(1) 加盟者の主体は下松浦郡 46

(2) 大・小一揆区分の根拠 47

第四節 相違する加盟者数と花押数…………… 49

(1) 史料にみる相違 49

(2) 花押有無の意味 49

第五節 一揆契諾状の成立と解消…………… 51

(1) 薄い軍事的要素 51

(2) 一揆契諾の解消 52

第六節 押書・契約状…………… 53

(1) 残存する多数の史料 53

(2) 強い調停機能 57

おわりに…………… 60

第三章 松浦氏の領国支配

はじめに…………… 62

序 論 松浦氏の戦国大名化

第一節 戦国大名への過程…………… 63

(1) 松浦平戸氏の台頭 63

(2) 平戸弘定の活動 66

(3) 平戸興信の活動 71

第二節 戦国大名としての松浦氏…………… 72

(1) 松浦隆信・鎮信 72

(2) 松浦隆信の躍進 74

(3) 松浦鎮信の活動 76

本 論 松浦氏の領国経営

第三節 松浦氏の戦国家法……………	77
(1) 一一か条の条々……………	77
(2) 条々の内容……………	80
(3) 形式上の問題……………	81
第四節 領国支配体制……………	86
(1) 老中……………	86
(2) 松浦氏と老中……………	89
(3) その他の奉行……………	91
(4) 徴税の実態……………	92
第五節 家臣団の編成と軍備……………	95
(1) 家臣団の形成……………	95
(2) 軍備の充実……………	97
第六節 城下町平戸……………	98
(1) 多彩な性格……………	98
(2) 特権商人安藤氏……………	102
第七節 貿易と布教……………	105
(1) 南蛮船の平戸来航……………	105
(2) 平戸における布教の進展……………	107
(3) 領内の緊張……………	110
(4) 貿易と布教の頓挫……………	112
第八節 新局面の展開……………	115
(1) 大村純忠領への退去……………	115
(2) 福田浦の攻撃と敗退……………	118
(3) 貿易途絶後の教会……………	122
(4) バレン追放令公布の波紋……………	125
(5) 平戸入部の宣教師……………	127
(6) 籠手田安一の抵抗……………	129
おわりに……………	129
第二部 肥前国高来郡	
第一章 肥前国高来東郷・高来西郷と高来一揆	
はじめに……………	143
第一節 肥前国高来東郷・高来西郷の成立……………	143
(1) 高来郡の内部構造……………	143
(2) 高来東郷・高来西郷の性格……………	148
(3) 惣地頭職その他をめぐって……………	160
第二節 高来一揆の性格……………	163
(1) 高来北方一揆の存在……………	163

(2)	高来一揆の結成	165
(3)	高来一揆と高来北方一揆	167
	おわりに	170

第二章 有馬氏の領国支配

	はじめに	174
--	------	-----

序 論 有馬氏領国の形成

第一節	有馬氏発展の契機	175
-----	----------	-----

第二節	五段階の推移	176
-----	--------	-----

(1)	発展期——貴純・純鑑時代——	176
-----	----------------	-----

(2)	全盛期——晴純時代——	176
-----	-------------	-----

(3)	衰退期——義貞・義純時代——	180
-----	----------------	-----

(4)	壊滅期——鎮純時代——	181
-----	-------------	-----

(5)	復興期——晴信（鎮純の後名）時代——	185
-----	--------------------	-----

本 論 領国支配体制

第三節	領国の支配	187
-----	-------	-----

(1)	中枢としての老職（老臣）	187
-----	--------------	-----

(2)	地域支配の拠点としての直轄地	193
-----	----------------	-----

第四節	有力家臣の存在	200
-----	---------	-----

(1)	島原純茂・純豊	200
-----	---------	-----

(2)	西郷純堯・信尚	203
-----	---------	-----

⑦	西郷氏の独立性	①	西郷氏の領主性
---	---------	---	---------

(3)	その他	211
-----	-----	-----

⑦	神代氏	①	安富氏
---	-----	---	-----

⑦	安徳氏	⑤	千々石氏
---	-----	---	------

第五節	有馬氏の居城	215
-----	--------	-----

(1)	本居としての日野江城	215
-----	------------	-----

(2)	原城は支城	217
-----	-------	-----

第六節	領国支配の特質	221
-----	---------	-----

(1)	有馬氏の多頭政治	221
-----	----------	-----

(2)	大村氏領への宗主権	224
-----	-----------	-----

	おわりに	227
--	------	-----

第三部 肥前国彼杵郡

第一章 平安末・鎌倉期の長崎

	はじめに	239
--	------	-----

第一節	荘園公領制の成立とその推移	240
-----	---------------	-----

(1)	彼杵荘	240
-----	-----	-----

(2) 伊佐早莊 241

第二節 武士の登場とその活動…………… 243

(1) 福田氏の興起 243

(2) 丹治比一族の発展 245

(3) 戸町氏と深堀氏 246

(4) 永崎(長崎)氏と永崎(長崎)浦 249

(5) 矢上氏存在 252

第三節 深堀氏の移住と惣地頭天野氏…………… 253

第四節 元寇と福田氏の活躍…………… 258

おわりに…………… 262

第二章 南北朝・室町期の長崎

はじめに…………… 266

第一節 動乱の勃発と福田氏の活動…………… 266

第二節 深堀・矢上両氏の活動…………… 274

第三節 非法の横行…………… 280

第四節 彼杵一揆と長崎…………… 285

おわりに…………… 299

第三章 戦国期の長崎

はじめに…………… 303

第一節 長崎氏と長崎港…………… 303

(1) 戦国期以前の長崎氏 303

(2) 長崎純景について 307

(3) 長崎氏の居城と城下町 308

(4) 深堀氏の長崎攻撃について 311

(5) 脚光を浴びる長崎港 315

(6) 南蛮貿易港への脱皮 317

第二節 六丁町の成立…………… 321

(1) 六丁町建設の経緯 321

(2) 六丁町の原点 329

(3) 六丁町の推移 332

(4) 城塞都市として 333

(5) 頭人の成立 335

(6) 六丁町内外への来住者 339

(7) 長崎の内紛史料について 346

第三節 長崎をめぐる諸権力…………… 352

(1) 教会領化をめぐる諸権力…………… 352

(2) 有馬・島津両氏の介入 357

(3) 純忠と純景 360

おわりに..... 363

後記

初出一覧

著者年譜／業績一覧

索引（人名・事項）

第一部 肥前国松浦郡

第一章 松浦氏の出自とその党的性格

はじめに

中世の武士団において、いわゆる党的武士団としては、武蔵七党・摂津の渡辺党・紀伊の湯浅党・隅田党および肥前の松浦党等が知られている。しかし、史料的制約等のため、個別の研究としては必ずしも多いとはいえない。この間にあつて、湯浅党に関しては安田元久氏の研究があるが、最も多くの研究のみられるのは松浦党である。

本章は、これまでの松浦党に関する先学の研究に導かれながらも、なお取扱われることのなかつた松浦氏の出自について考察を加え、次いで党としての松浦氏一族について考察しようとするものである。

第一節 出自と発展

(一) 出自について

松浦氏の出自については従来二説がある。その一つは、前九年の役に敗れた奥州の安倍宗任が九州に配流され、その子孫が松浦党となつたとするものである。他の一つは、嵯峨天皇の皇子が臣籍に降つて源融と称し、その後数代を経て、源久が肥前国松浦郡に下向土着して松浦氏の開祖となつたとするものである。しかし、この問題に

ついでに解明が容易でないことによるものか、正面切つて考察を試みた専論はなく、したがって確定もされるにはいたっていない。

まず安倍宗任を先祖とするとの説についてみる。この安倍宗任末孫説は、『平家物語』にみえる。例えば、その百二十句本系統の一つである国立国会図書館本の剣の巻に、

天喜五年に頼光の弟、河内守頼信の嫡子伊予守頼義、奥州の住人厨川の次郎安倍の貞任兄弟を攻めんとせしとき、陸奥守に任せらる。宣旨にて鬼丸、蜘蛛切を頼綱が手より頼義に賜びにけり。かの太刀にて九年があひだに攻めしたがへ、貞任を首を切り、宗任をば生捕にし、のぼられけるが、丈六尺四寸なり。殿上人うち群れて、「いざや、奥の夷を見ん」とて行かれけるに、一人梅の花を手折りて、「やや、宗任。これはなにか見る」と問はれければ、とりあへず、

わが国の梅の花とは見たれども、大宮人はいかにいふらん

と申ければ、殿上人しらけてぞ帰られける。そのち筑紫へ流され、今の「松浦党」とぞ承はる。

(ルビ適宜省略、次史料も同じ——著者)

とある。また『屋代本平家物語』の別冊剣巻にも、宗任が源頼義に捕えられて京都に連れて行かれ、梅の花をめぐる殿上人とのやりとりをした記述に続いて、

其後宗任ハ筑紫へ流サレタリケルカ、子孫繁昌シテ不絶トソ承ル、今ノ松浦党是ナリ、

とみえる。

『平家物語』諸本のうち、安倍宗任の九州配流と、その末孫が松浦党となつたと説くのは、右の百二十句本と屋代本である。屋代本のうち、こうした安倍宗任の子孫が松浦党となつたと記す別冊の部分は、十三世紀後半(鎌倉後期)の成立であり、百二十句本はこの後に成立したといわれることから、同説も鎌倉後期以来の説とい

うことになる。

なおこの宗任末孫説は、その後、江戸時代にも継承された。すなわち、『前太平記』巻三四の「義家鎮守府將軍宣旨宗任下筑紫事」に、

(義家) 永保三年六月、陸奥守兼鎮守府將軍にぞ補せられける、されば近日下向あるべしとて、其出立せられけり、爰に奥州の降人安倍宗任は、去ぬる比より、義家朝臣の郎等と成りて、無二の忠孝を尽し、二十年の給仕怠ることなく勤めけり、然るに奥州は彼が本国なるに、今度の御供こそ然るべからぬ事よと、人々傾き申けり、將軍義家斯と聞き給ひ、(中略)之に依て先立て奏聞を經、筑紫の松浦の内にて、汝が一所懸命の地を申し賜はりぬ、早く彼処に下りて領知すべしと宣ひければ、宗任謹んで承り、誠に有難き上意、争か違背仕る可き、(中略)宗任年五十に餘り、筑紫に下り、過分の榮耀を好み候はんや、(中略)其後宗任松浦に下りぬ、此より先、渡辺綱が孫小源二正、彼処に住居せり、されば正・宗任二人が子孫、松浦党とて繁昌せり、

とある。この他にも、同じく江戸時代に著された『歴代鎮西要略』巻二に、

(兼平) 五年壬寅九月、源頼義・義家父子、討克於奥州合戦、殺夷將安陪貞任(中略)父子一族亡、世所謂奥十二年合戦是也、東国悉屬源氏、貞任之弟宗任・則任為俘、宗任配松浦、則任配筑後、(中略)宗任之子孫称松浦氏、

とある。このように安倍宗任末孫説は、その実否はともかく、かなり広く流布していたといえることができる。

果して安倍宗任は九州に配流されたのであろうか。この点について、『百練抄』に、

(兼平) 三月廿九日、伊予守頼義、自奥州相具所上洛之降虜宗任等、有議不令人京、分遣国々、宗任遣伊予、良照遣

大宰府、

とあるのに続いて、

治暦三、宗任等移遣大宰府、依有欲逃帰本国之聞也、

とある。これによれば、宗任は源頼義に捕われて「上洛」したが、「入京」せしめられず、伊予国に配せられ、のち奥州に逃げ帰ろうとしたために大宰府（九州）に移されたというのが事実らしい。宗任自身は配流の時点で九州に土着する意図はなかったようであるが、ただその末孫のことについては記すところがない。ともかく、これだけからは、松浦党の安倍宗任末孫いかにについては何ともいえない。

一方、前述のように嵯峨天皇の皇子が臣籍に降って源融となり、その数代後の源久という者が、肥前松浦郡に下向して松浦党となったとする説がある。

例えば、近世松浦藩で編纂をみた松浦家の家譜である『家世伝』には、嵯峨天皇の皇子である源朝臣融の八代目の子孫に松浦新太郎久が記され、同人が延久元年、肥前松浦郡に下向土着したとする。すなわち、同書巻三に、松浦公諱久、為肥前松浦郡宇野御厨檢校、補檢非違使、叙従五位下、因称大夫判官、滝口公第一子也、以康平七年生于撰津渡辺、延久元年西下居松浦郡、因以松浦為氏、領本郡・彼杵郡及峯岐之田凡二千二百三十町、家于今福村加治屋、

とある。記述には土地を面積表示するなど、近世的感觉によった部分があり、明らかに誤記を含んでいる。なお、源久の肥前松浦郡下向の年については、同じ近世平戸藩政下で成立した諸書において、一、二の相違がある。例えば『三光譜録』は、これを久安元年十二月晦日とし、また『壺陽録』は、同じく久安元年十二月二十日とする。以上みた両説に共通するのは、共に松浦氏が現地出身ではなく、他所から来住した者の系譜に繫るとする点である。しかし、このうち前者は、安倍宗任という捕囚より出たとするのに対し、後者は嵯峨天皇より出た嵯峨源氏という名門であるとすると大きな相違が認められる。

さらにまた、安倍宗任という前九年の役の際の反逆者を開祖とする点は、同じく肥前の大村・有馬両氏が、共にその開祖に承平・天慶の乱を起こした人物の一人藤原純友を設定したのと同工異曲といわねばならない。⁽⁷⁾ まず安倍宗任末孫説についてみると、松浦氏は、少なくとも鎌倉時代以後源姓であることは確実である。そして後述するように、源知・源順等の平安時代の人物とも深く関わりとみられる。したがって同氏が源姓であることは、やはり平安時代まで遡る可能性が強い。その意味で、安倍氏とは結び付け難い。ここが安倍宗任末孫説の最大の難点といわねばならない。

さらにこの源知が肥前国司であったこと、また源順が肥前国の宇野御厨うののみくりやの開発領主の系譜に繫ること（次項で詳述）を思えば、こうした人物と、捕囚上りの宗任およびその系譜に繫る人物とは、性格的に相容れ難く、両者の関連性は極めて薄いことを推測させる。

さらに安倍宗任の末孫説をかりに受け入れるとした際、のち松浦郡内の青方あおかた・宇久うく・志自岐しじま各氏等のごとき、本来松浦氏と何ら血縁関係のない者が、なぜこうした蝦夷の捕囚出身の松浦氏の下に参集し、松浦党化したのかの説明をつけ難いという事情が生ずる。そこに嵯峨天皇末孫説が生まれる余地がある。とはいえ、江戸時代以前には、こうした主張は存在しなかったのである。

瀬野精一郎氏は、松浦氏の構成する「党」という語に、多分に輕蔑の意が込められているとされる。松浦党という蔑称は、こうした安倍宗任末孫という伝承が『平家物語』に記された鎌倉後期より早くから存在し、それと結び付けた中で生み出されたとみることができると述べている。⁽⁸⁾

一方、嵯峨天皇の末孫説を信じた場合、先述したことから分かるように、「松浦党」という蔑視観とどう結びつけるかという問題が生じる。ただし、これは後述のように系譜的な事情とは次元を異にするもので、武士団としての構造上の問題であるとすれば、それなりに説明を付けられないことはない。

後記

以上、三部八章にわたって拙論を展開してきた。論じたものは、今日私が住んでいる長崎県の旧松浦郡・高来郡・彼杵郡に関わるところである。

これまで歴史研究に携わってから早や半世紀以上に達する。前半は豊後大友氏の研究に二十数年を過ごし、長崎に居を移してからは長崎県史を中心に研究テーマを定め、今日にいたっている。大村・有馬・松浦氏等の研究は、若き日の大友氏研究が基礎となつているといえるかも知れない。長崎の研究は、その延長線上に進めたものである。

ただ長崎に住んで歴史を展望すると、実に豊かで、興味をそそられるものが少なくない。そのためこれらに眼を奪われ、近世、ときには幕末維新期にまで仕事の幅を広げることになってしまった。そのため中心テーマからそれること少なからず、本書に収めた論文が二十年以上前に書いたものを含むというのは私の怠惰を示すものともみるべきで、忸怩たる思いである。

いまわが身を顧みれば、まもなく七十代が終ろうとしている。妻は病み、二年半にわたって入院生活を送っている。この中一方で、目下一〇〇余名の協力者を得て長崎市史四巻の完成を目指す日々である。日暮れて道遠しの思いである。

本書をなすについて、東京大学史料編纂所、長崎大学附属図書館・長崎県立大学シーボルト校附属図書館、長崎純心大学早坂記念図書館、国立公文書館、長崎歴史文化博物館、長崎県立長崎図書館、松浦史料博物館、松浦家当主松浦章氏に御世話になった。

本書の刊行については思文閣出版の原宏一氏、また編集担当の田中峰人氏には格別に御世話になった。厚く御礼申し上げます。

平成二十三年十一月八日

外山 幹夫

ちゅうせいながさき きそてきけんきゅう
中世長崎の基礎的研究

2011(平成23)年12月11日発行

定価：本体7,500円(税別)

著者 外山幹夫

発行者 田中 大

発行所 株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355

電話 075-751-1781(代表)

印刷 亜細亜印刷株式会社
製本

© M. Toyama

ISBN978-4-7842-1589-8 C3021

【人名】

あ

相神浦・相浦(氏) 37, 65, 70
アイレス=サンチェス 122, 128, 201
青方氏 7, 13, 18, 32, 36~38, 53, 57~59
青方高直 53, 271
浅井(氏) 339
朝倉孝景 83, 84
足利尊氏 34, 50, 267, 270
足利直冬 158, 159, 276
足利義輝 314, 315
足利義教 66, 163, 167
足利義晴 176, 180
足利義満 159
蘆刈義基 343
篤 54~56, 58
安倍宗任 3~9, 11, 27
天野景朝 254~256
天野氏 256, 258
天野遠景(連景) 26, 244, 249, 250, 254~256, 281
天野政景 254~256
有河(氏) 36~38, 58
有田(氏) 18, 37, 70
有馬氏(有間氏) 7, 68, 69, 86, 94, 154, 158, 166, 168, 170, 174~178, 183, 185, 187, 189, 191, 193, 197~206, 211, 212, 214~219, 221, 222, 224~227, 305, 319, 324, 326, 339, 355~357, 361
有馬鎮純(晴信、ドン=プロタジオ) 126, 181, 183, 184, 187, 202, 205, 212~214, 216, 220, 223

有馬貴純 75, 175, 176, 191, 217, 305
有間経澄 192, 215, 217
有間朝澄 154, 157, 160, 215
有馬直純 183, 218
有馬の屋形 324
有馬晴純(仙岩) 174, 176~181, 189, 195, 200, 201, 203, 206, 213, 214, 218, 219, 221, 222, 225, 226, 324, 355, 357, 358
有馬義純 179~182, 188, 192, 213, 219, 221~223, 226, 323~325, 327, 355, 357, 358
有馬義直(義貞・アンデレ) 174, 176~182, 187, 188, 195, 199~201, 203, 204, 213, 216, 218, 219, 221~224, 226, 227, 316, 317, 324, 355, 357, 358
アレシヤンドロ=ワリニャーノ 184, 199, 204, 214, 216, 329, 330, 339, 352, 354
安藤市右衛門 94, 102, 103
安藤氏 95, 102~104
安德氏 175, 177, 183, 187, 188, 213
安德純俊 189, 214

い

生月伊勢守 64
いきつきの一部大和守 42
イグナチウス=ロヨラ 105
井崎綱通 210, 211
伊佐早四郎 284
石志彦(源彦) 20, 21, 26
石志潔 12, 20, 21
伊集院忠棟 189, 212
一部勘解由(ドン=ジョアン) 74, 87~90, 108, 122, 124, 125

一部氏 65, 66, 88, 89, 95
 一色直氏 276
 一色範氏(道猷) 50, 272, 275~279, 283, 295, 298
 伊藤氏 95, 102, 104
 伊藤四郎左衛門 68, 95, 101
 今川仲秋 51, 52, 276
 今川頼泰 295
 今川了俊 18, 47, 51, 52, 159, 162, 166, 168, 169, 276, 295
 今富氏 304
 今富彦三郎 182, 281
 伊万里氏 18, 48, 65

う

宇久(氏) 7, 18, 36~38, 53, 58, 59, 63, 65, 66, 343
 宇久伊豆守勝 41
 宇久覚 40, 54
 宇久純堯(ドン=ルイス) 343, 345
 宇久松熊丸(勝) 53, 54, 58, 59
 宇久盛久 71
 宇佐公房 242
 宇佐公通 242
 宇佐公基 242
 白杵惟隆 247
 浦上氏 293, 304
 浦上沙弥浄賢 289, 292
 浦上中野美作守 296
 嬉野氏(宇礼志野氏) 177
 上井覚兼 189, 212, 359

え

越中氏 154, 158
 越中政員 154, 157, 160, 161

お

相知(氏) 18, 37, 48
 相知秀 271
 近江源氏佐々木氏 339
 大内教弘 163, 164

大内政弘 66
 大内義興 69, 71, 72
 大内義隆 72, 108
 大浦氏 245, 252, 271, 274, 293, 303
 大岡清相 252
 大串氏 245, 252, 303
 大島 19, 32, 37, 64, 65, 67, 71
 大島胤政 67~69
 大島伯耆守徳 41
 大館常興 176
 大友(氏) 92, 115, 125, 222, 224, 341~344
 大友貞載 267, 281, 282
 大友貞宗 267
 大友宗麟(義鎮、円斎) 73, 76, 108, 111, 115, 177, 182, 185, 222~224, 341, 342
 大友親繁 163, 167
 大友親世 159
 大友義鑑 224
 大友能直 26, 341
 大友義統 222, 223, 341
 大野定久 69, 71, 86, 87
 大野(氏) 37, 87, 205
 大曲(氏) 37, 65
 大曲藤内 64, 65
 大村(氏・家) 7, 68, 94, 97, 115, 118, 177, 204, 206, 224, 225, 239, 298, 304, 319~321, 324~326, 328, 339, 356, 361
 大村純前 177, 225, 357
 大村純忠(理専、ドン=バルトロメウ) 89, 90, 114, 115, 117, 118, 120, 121, 123, 179, 203, 204, 214, 225, 226, 298, 308, 311, 312, 314, 318~327, 333, 334, 338, 345, 350~358, 360, 362, 363
 大村太郎 281, 282, 295
 大村又八郎→後藤貴明
 大村喜前 320, 349, 353, 354, 363
 緒方惟能(惟栄) 16, 21~25, 32, 247
 阿西(於西) 342, 343
 小侯道利 275, 283

か

カスバル=コエリヨ 126, 128
 カスバル=ビレラ 90, 101, 104, 109~112, 116, 127, 128, 309, 313, 314, 351
 加藤(氏) 37, 65, 66, 90, 95
 加藤源之助 87, 89, 122
 懐良親王 50, 168, 295
 カピタン=モール 113

き

菊池氏 168, 169, 206, 344
 菊池隆直 16, 23, 25, 32, 247
 菊池武敏 276
 菊池武光 33, 166~168, 294
 菊池正重 344
 玉円坊 347, 348, 350
 清原是包 13, 14

く

九条道家 241
 桑姫御前 342

こ

神代貴茂 183, 206, 212, 213
 神田氏 18, 33
 河野 37
 古賀(空閑)氏(殿) 179, 195, 202, 214, 252, 334
 小島備前守 314
 コスメ=デ=トルレス 105, 107, 108, 110~115, 122, 123, 127, 128, 191, 225, 308, 315, 341
 後醍醐天皇 266
 籠手田栄(栄正) 69, 72
 籠手田氏 69, 70, 91, 95
 籠手田安一(ドン=ゼロニモ) 86, 87, 89, 124, 129, 343
 籠手田安経(ドン=アントニオ) 73, 74, 86~91, 99, 101, 108, 110~112, 115~120, 122, 124, 125, 129, 343
 籠手田安昌

73, 74, 87, 88, 90, 96, 110, 112

古道 100
 後藤(氏・家) 115, 177, 225, 323, 336, 338, 339, 348, 350
 後藤貞之 348
 後藤三郎 282
 後藤庄左衛門(実太郎、宗印) 339
 後藤惣太郎 335~337, 339
 後藤貴明(大村又八郎) 116, 225, 311, 317
 五島氏 53, 59, 63, 343
 後奈良天皇 108
 小西行長 341
 コノエ=バルトロメウ 114

さ

西郷氏 177, 183, 192, 204~211, 214, 312, 334
 西郷純賢→深堀純賢
 西郷純堯 181, 200~206, 209, 211, 212, 223, 311, 312, 356
 西郷尚善 203, 206
 西郷信尚(純尚) 203, 205, 209, 211, 212
 斎藤正遍 267
 斎藤遍正(沙弥遍正) 282
 嵯峨源氏 10
 佐賀惟憲 22
 嵯峨天皇 3~7, 8, 10, 11, 27
 佐々(氏) 37, 65, 68, 69, 175
 佐々木茂四郎 335, 337, 348
 佐志氏 18, 32, 65
 佐世保(佐瀬保)(氏) 48, 298
 三条西実隆 206

し

ジェロニマ 188
 慈円 148, 161
 志賀氏 341, 342, 344
 志賀親勝(宗邑) 342
 志賀能郷 341
 志岐氏 345, 346

櫛氏 121, 225, 293
 志岐諸経 177
 志佐(氏) 18, 37, 65, 68, 69, 75, 87, 95
 志自岐(氏) 7, 18, 32, 37, 65, 177
 四条天皇妃藤原彦子 241
 斯波氏経 33, 35, 166, 167
 渋川刀禰王丸 175
 島瀬九郎三郎 292
 島瀬氏 296, 298
 島津(氏) 125, 126, 174, 182, 183, 189,
 190, 211, 341, 343, 357~360
 島津家久 185, 189, 214, 358, 359
 島津軍 185, 189, 190, 202, 214, 222
 島津義久 182, 183, 356, 358
 島津義弘 189, 190
 島原(氏) 177, 183, 192, 195, 201, 202,
 205, 212, 214, 325, 328, 339
 島原純茂 195, 200~203
 島原純豊 184, 200~202
 ジャコメ=ゴンサルバス 117, 128
 沙弥性西(浦上ノ六郎入道) 289, 292
 ジョアン=カブラル 116, 117, 122, 128
 ジョアン=フェルナンデス
 88, 105, 107, 117, 122, 123, 127, 128
 少弐氏 51, 75, 175, 294
 少弐経資 161
 少弐冬資 166
 少弐政資(政尚) 175
 少弐嘉頼 175
 少弐頼尚 167, 272, 276, 294
 白魚繁 56, 57
 白倉如庵 335~337, 350
 尋覚 13
 す
 須川主水 335~337, 350
 圓師兼郡司 150
 せ
 征西將軍宮 33
 セバスチアン=ゴンサルバス
 122~124, 128

宣仁門院 241
 禅陽房内照(内昭) 242
 そ
 宗貞国 175
 宗貞盛 175
 宗氏 76, 77
 早田氏 19, 32
 宗経茂 294
 惣兵衛重方 307
 宗義智 341
 た
 多比良氏
 150, 151, 166, 168, 170, 175, 177
 平包貞(兼貞・隈平太) 244
 平兼信 244
 平包守(包盛・兼盛) 240, 241, 243, 244
 平清盛 151
 平重純(長崎矢上ノ八郎) 288, 292
 平資盛 304
 平盛綱 304
 多比良通秀 151
 多比良通世 151
 多尾(氏) 36, 38
 高木(氏) 323, 336, 338, 339, 348, 350
 高木勘左衛門 335~338, 347
 高木新七郎 335~337
 高島(氏) 323, 336, 338, 339, 348, 350
 鷹島氏 18, 65
 高島茂春 339, 348
 高島秋帆 331
 高島四郎兵衛 336, 337, 348
 高島了悦 335, 339
 高谷氏 344
 高浜氏 292, 293
 多久氏 71, 177
 武田晴信 83
 竹中采女正 342
 (肥前)丹治・丹治比(氏) 245, 247, 248,
 250~252, 292, 293, 303, 304
 丹治重通(時津ノ弥五郎) 289

多治比姓長崎氏 305
 丹藤次俊長 249, 250
 田中吉政 349, 363
 谷川弾正左衛門 191~193
 田平(氏)
 37, 64, 65, 67~69, 74, 75, 86~88, 95
 田平純本(昌) 66, 68, 69, 71, 72, 87
 田平弘(幸達) 66, 67, 87
 玉ノ浦氏 71
 丹治俊家(大浦ノ平次郎) 288, 292, 293
 丹藤三宗三郎 283, 284
 ち
 チェルソ=コンフォルネーロ 125, 128
 千々石淡路守 193
 千々石・千々岩氏
 177, 193, 199, 214, 220
 千々石清左衛門(ミゲル) 214
 千々石直員 177, 193, 214
 千葉氏 51, 177
 千葉胤鎮 163, 167
 千綿氏 304
 つ
 調河周防守續 42
 津吉(氏) 18, 37, 65, 66, 68
 津吉(松浦)重平 17, 18, 32
 て
 ディエゴ 91
 ディオゴ 346
 と
 刀伊の賊 9, 10
 時津氏 245, 252, 281, 303, 304
 時津重用 261
 都甲氏 22
 鳥栖武資 168
 ドナ=ベアトリス 89
 鳥羽院 151
 戸町(戸八)氏 245~249, 253, 254, 256,
 284, 293, 296, 303, 304, 318

戸町俊長 248
 戸町俊基 261
 (戸町)本司俊長 247
 朝長純利 114, 120, 121, 322
 朝長対馬守 322, 323, 325~327, 361
 豊臣氏 198
 豊臣秀長 126
 豊臣秀吉 74, 76, 100, 125, 126, 129, 174,
 182, 185, 211, 212, 341, 356, 363
 トラ 308, 362
 ドン=エステワン 195, 214
 ドン=ジョアン=ペレイラ
 117~119, 225
 ドン=フェルナンド=メネーゼス 107
 ドン=ミゲル 216
 ドン=レオン 191
 頓阿 38, 54
 な
 長江五左衛門 336, 337
 長崎・永崎(氏) 218, 245, 248~252,
 292, 303~305, 308~310, 356
 長崎小太郎 250, 303~305
 長崎左馬助 305
 長崎重純 305
 長崎重綱 303, 304
 長崎甚左衛門 305, 347, 348
 長崎純景(頼景・ベルナルド) 305, 307~
 309, 310, 312~314, 321, 322, 330, 333,
 338, 346~352, 355, 357, 360~362
 長崎純方 307
 長崎為真 303
 長崎為直 303
 長崎為基 303
 永崎(長崎)俊信 249~251, 283, 305
 長崎矢上周防孫六 252, 290, 292, 293
 長崎矢上八郎 292, 305
 長崎康純 305
 中野美作守 297
 中原親能 26
 中村(氏) 18, 32, 37
 長与民部次郎入道 295

鍋島勝茂 218
 鍋島信生(直茂) 207, 209~211, 213
 南郷大宮司惟安 23

に

新納久饒 189
 西川如見 315
 西兵庫入道 218, 219

ぬ

沼喜田小庵 335~337, 350

の

野茂氏 292, 293
 野本時員 148, 160
 野本行員 148, 160, 161

は

早岐氏 296, 298
 波多氏(波田氏)(家) 18, 65, 67, 72, 76, 95, 179, 181
 馬場甚兵衛 335, 337, 338, 350, 351
 原田種直 25
 原田兵部 206
 針尾貞治 115
 バルテザール=ガゴ 89, 108, 109, 111, 127
 バルテザール=コレア 125, 128
 バルテザール=ダ=コスタ 116~122, 128
 バルテザール=ロベス=デ=クステロ=ブランゴ 123, 128

ひ

日宇(氏) 37, 48, 296, 298
 日宇弥五郎 281, 282
 日浦与左衛門 323
 東純盛 207~209
 土黒淡路守 191
 日高氏 76, 95
 日野浦与左衛門 336, 337
 紐差氏 18, 64~66

日向太郎通良 151
 日向通秀 151
 平戸(氏) 18, 37, 57, 59, 63, 64, 98
 平戸興信 71~73, 75, 94
 平戸豊久 66, 73, 87
 平戸の王 92, 97
 平戸弘定(定) 66~73, 86, 87, 90, 95, 101, 102, 175
 平戸源湛 41, 64
 平戸義(是興) →松浦是興
 平山越中守 68, 86

ふ

深江安房守 71, 74, 96
 深江氏 71, 95, 205, 213
 深江辰之助 252, 336~338, 344
 深堀清綱 277
 深堀清時 283, 284
 深堀氏 166, 168, 203, 239, 246, 248, 250, 251, 253, 254, 256, 262, 266, 274, 278, 279, 283, 284, 293, 298, 310, 311, 313, 318, 320, 322, 329, 334, 335, 361
 深堀(西郷)純賢(茂宅) 203, 205, 208, 209, 311, 320, 322, 328, 333, 356, 360, 361
 深堀時伸(時願) 248, 249, 258, 259
 深堀時広 274, 276, 277, 279, 283~285
 深堀時勝 288, 294, 295
 深堀時通(孫太郎、明意) 258, 274~276, 278, 281, 282, 295, 298
 深堀時元 283~285
 深堀政綱 277, 279
 深堀行光 248, 249
 深堀能伸 247, 249, 253
 深町氏 166, 168, 177
 深溝郡司応順 159
 福田(氏) 117, 200, 224, 225, 239, 243~245, 258, 262, 266, 267, 269~271, 273, 274, 293, 296, 312, 318
 福田兼明 268, 269
 福田兼家 268, 270
 福田兼氏 268, 269, 273, 274
 福田兼重 244, 254, 256, 259~262

福田兼澄 268, 270, 273, 274
 福田兼親 268, 270
 福田兼次(ジョーチン) 117, 120, 121, 222, 225, 226, 357, 358
 福田兼信 245, 266~274
 福田兼秀 268, 270, 273
 福田兼政 268, 270
 福田兼益 268~271, 273, 274
 福田兼光 244, 260, 262
 福田兼盛 268, 269
 福田此純 268, 273, 274
 福田左京(亮) 200, 218
 福田平次 244, 293
 藤井宮時 242
 藤原純友 7
 藤原頼経 23, 24
 フライ=バブロ=ロドリゲス 104
 フランシスコ=カブラル 123, 127
 フランシスコ=カリヤン 128, 329
 フランシスコ=ザビエル 105, 107, 108, 122, 123, 127, 128
 豊後大神氏 21
 豊後大友氏 94, 344
 文知房(平戸屋——) 323, 331, 337

へ

平家 32, 148, 151
 戸次鎮連 223
 ベトロ=ダルカセバ 108, 117, 128
 篁崎氏 69, 72, 87, 89
 ベルナルド→長崎純景

ほ

北条氏 266, 267
 北条重時 247
 北条高時 266
 北条時政 32, 255
 北条時頼 162, 247
 北条英時 266
 ホセ=ルイス=アルバレス=グラドリズ 353
 布袋(姫) 69~71

堀氏 187, 192
 堀純政 191, 192

ま

マグダレナ 341
 町田(氏) 323, 348, 350
 町田市郎右衛門 336
 町田市郎兵衛 335~337
 町田宗賀 335, 339
 マッセンシア 342
 松浦(氏・家) 3, 5, 7~9, 11~14, 16, 19, 20, 25, 27, 34, 35, 62, 64, 65, 71~73, 76, 77, 84, 87~92, 94, 95, 97, 98, 100~104, 107, 110, 112, 118, 120~122, 124, 125, 127, 174, 177, 180, 316, 343
 松浦相神浦盛 75, 177
 松浦相神浦氏 69, 70, 74, 75, 95
 松浦相神浦親(宗金) 72, 75
 松浦相神浦政 69, 70, 74
 松浦興信(高齢) 86~88, 95, 98, 102, 103
 松浦清(静山) 17, 18, 32, 99
 松浦軍 95, 118~121
 松浦(平戸)是興(義・天叟) 66, 73, 75, 87
 松浦鎮信(法印) 65, 73, 74, 76, 77, 82, 90, 91, 100, 102, 103, 122, 124, 125, 129, 311, 329, 343
 松浦鎮信(天祥) 65, 83
 松浦重平→津吉重平
 松浦十郎連(沙弥定西) 13, 63
 松浦知 17, 18, 32
 松浦新太郎久 6
 松浦隆信(道可・一溪斎) 65, 66, 72~78, 81, 82, 84, 85, 87, 88, 90~94, 96~98, 100, 102, 103, 107~118, 121, 122, 129, 179, 311, 315, 317, 343
 松浦隆信(宗陽) 65
 松浦豊久 90
 松浦直 13, 14, 63
 松浦波多披 50
 松浦久信 65, 76
 松浦披 17, 18, 32
 松浦平戸(氏)

63~67, 70~75, 87, 95, 96, 103, 129
 マルチン=ルター 105

み

三浦氏 251, 253
 御厨(氏) 18, 37, 65, 68
 源順 7, 9~13
 源経俊 22
 源融 3, 6
 源知 7, 9~13
 源久 3, 9~13
 源義経 26, 244
 源頼朝 16, 148, 160, 240, 304
 源頼義 4~5
 峯定 50
 峯氏 18, 63, 64
 峯披 32, 63
 峯持 63, 64
 宮村(氏) 37, 296, 298

む

宗像氏 51
 村山東安(等安・安東) 346, 348, 349

め

メストレ=ベルシヨール=ヌネス 109
 メルシヨール=デ=フィゲイレド
 116, 118, 123, 128, 315, 316

も

桃野兵庫助 71, 72, 74, 96

や

八尾家 332
 矢上(箭上)(氏) 207~209, 245, 252,
 253, 274, 279, 280, 292, 293, 296, 303
 矢上民部三郎 280, 283
 箭上幸治 208, 209
 薬師寺種広 342
 安富左兵衛 213
 安富氏 175, 177, 213
 安富純泰 213

安富徳円(得円・ジョアン) 182, 187~
 190, 192, 193, 199, 201, 213

安富(深江)泰重 167, 168
 八並氏 18
 柳川藩主立花家 341
 山峨秀遠 16, 31
 山口(氏) 18, 37
 山代(氏) 18, 37, 48, 65, 72, 95
 山田氏 65, 66, 72, 89, 95, 187, 214
 山田主計頭 191, 192
 山田甚吉 347, 348
 山本庄左衛門 335~337, 350

ゆ

湯浅宗重 15

よ

横瀬与五左衛門・横瀬浦五右(左)衛門
 323, 336~338

吉岡九兵衛 335, 337, 350
 吉田氏 69, 72, 177
 吉富宗巴 92~94
 ヨセフ=フランツ=シュッテ 353

り

李旦 100
 龍造寺家晴 212
 龍造寺軍 182, 214, 223
 龍造寺氏 175, 177, 178, 184, 189, 206,
 208, 209, 211, 212, 214, 320, 356
 龍造寺隆信 75, 174, 176, 178~181, 183,
 185, 188, 192, 199, 200, 202, 204, 205,
 207~209, 211, 213, 214, 216, 221, 319,
 320, 352, 356, 358, 359
 龍造寺政家(鎮賢) 183, 208, 211~213

る

ルイス=デ=アルメイダ 91, 97, 113,
 114, 128, 200, 223, 308, 313, 351
 ルイス=デ=グスマン 92
 ルイス=フロイス 72, 86, 88, 89, 112,
 115, 116, 119, 121, 128, 179~181, 183

~185, 187, 188, 191, 192, 194, 195, 200,
 202~205, 212, 213, 220, 223, 310~312,
 315, 316, 324, 326~329, 331, 335, 338,
 340, 345, 357, 359~361

れ

レオン=パジェス 340, 345

ろ

ローマ教皇

105

わ

渡辺綱

5

【事項】

あ
相神浦 70, 74, 75
アウグスチン会員 127
「青方文書」
33, 40, 46, 49, 50, 53, 55, 56, 58, 294
厩大太 21
朝倉孝景条々(新井白石本) 84
朝倉孝景条々(黒川本) 83
『吾妻鏡』 16, 22, 23, 25, 31, 144, 154, 157,
160, 244, 255
東国御家人 160
アフリカ 105
天草 102, 103, 123, 314
「天野氏系図」 256, 258
有家(村) 194, 199, 213
有馬(有間) 154, 189
有馬郷(有馬村) 144, 193, 194, 199, 217
有馬荘(有間荘)
145, 147, 152, 153, 156~158, 170, 174,
199
有馬城 215
『有馬晴信記』 178, 215, 216
安藤市右衛門言上書 102
安徳城 189

い
飯盛城 70, 74, 75
飯良(村) 90, 112, 115
イエズス会 105, 123, 125, 178, 199, 216,
218, 313, 319, 320, 321, 350, 352
イエズス会員(会士) 127, 312, 340
壱岐 72, 76, 77, 93, 95, 123, 175
生月(島) 64~67, 72, 88~90, 95, 98, 112,
115, 122, 124
異国警固番役 260, 262, 276
伊佐早(村) 99, 147, 158, 181, 203~206,
212, 242, 277, 311, 312, 334, 356
伊佐早荘 145, 147, 152, 158, 240~243,

252, 253, 262, 279
伊豆国御家人 249, 254
イスパニア(商人・人)
100, 105~107, 124, 127, 216
イスパニア船 104
イタリア人 127
一揆頭 51, 53, 295
一揆契諾状 31, 35, 36, 40, 46, 51, 52, 57,
59, 60, 62, 64, 99, 167, 170, 294
一揆連判状 167, 170, 252
稲佐(村) 129, 308, 342~344
今福(村) 6, 70
伊万里(浦) 17, 63
印山道可尊君御条目 82

う
宇木城(宇喜城) 168, 207
宇佐八幡宮 253
牛津(牛津川) 178, 181, 185
宇野御厨 7, 10, 13, 26, 63
宇野御厨検校(職) 8, 12
宇野御厨庄 33, 145
浦上(郷) 169, 244, 245, 363
浦上一揆 166, 169, 297
浦上村(山里) 178, 199, 344
浦上村惣庄屋 344

え
『越前丸岡有馬家譜』 187, 215, 217
江迎 67, 69~71

お
生手(老手)村 240, 241, 243, 244, 266
応安五年一揆連判状断簡写 289
押書 31, 53, 57, 59, 60, 62
大江 217
「大川文書」 150, 154, 156
『大館常興日記』 176
『大曲記』 64~66, 70~72, 74~76, 86, 89,
90, 96, 97, 99, 100
大村 115, 116, 324, 329, 361
『大村家覚書』 312, 313, 316, 317

『大村家記』 246, 292, 298
『大村家秘録』 316
大村純忠領 327
大村町 320, 322, 323, 327, 328, 333
小城郡(代) 178, 185, 200
小値賀島 13, 63~65
乙名 323, 340
オランダ船 104

か

『海東諸国紀』 34
鶴城(桜馬場ノ城) 308~313, 330, 331, 355
鹿兒島 105, 107
上総国 239, 253, 311
上総国印南荘深堀 251, 253
上総国御家人 247, 253, 258
『家世伝』 6, 13, 18, 64, 65, 71, 84, 86, 89, 99
加津佐(村) 154, 155, 194, 195, 199
カピタン 107
カピタン=モール 116~119, 125, 225
鎌倉幕府御下文 20
上・下松浦党 31, 32, 60
上松浦党 33, 50, 57, 65
ガレオン船 118, 119
「河上神社文書」 33, 144, 148, 149, 152~
154, 157~159, 241, 242
『寛永諸家系図伝』 8, 10, 11
勘定場壁書 78, 82, 85
『寛政重修諸家譜』 188, 215
関東御公事 254
関東御領 248, 249
関東裁許状(写) 254, 256, 304
関東御教書 304

き

基肄郡(基肄北郷・基肄南郷) 145, 149
杵島郡(杵島郡北郷・杵島北郷・杵島南
郷荘) 51, 145, 146, 177, 178, 185, 200,
223
起請文 207, 208, 210, 211, 260, 320
九州探題(職) 51, 52, 167, 169, 267, 280,
283, 295, 298, 341

『九州治乱記』 165, 213
『崎陽群談』 252
京都 52, 100, 108, 114, 242, 271, 278
京都大番役 20, 254, 304
『玉葉』 22, 23
キリシタン 88, 104, 109, 111, 120, 122,
123, 129, 190, 194, 195, 201, 202, 204,
239, 313, 314, 327, 333 ~ 335, 340,
342, 343, 345, 349
キリスト教 62, 75~77, 101, 105, 111~
114, 117, 122, 124, 125, 127, 130, 181,
185, 199, 202, 203, 303, 311, 351, 363

く

串山郷 144, 154, 157, 158, 160
串山荘 145, 152~154, 158
玖珠城 275, 278
口之津(港・村) 181, 184, 194, 195, 202
「久能文書」 197, 215
公文僧 241
「来島文書」 55, 159

け

契諾状 49
契約状 31, 53, 59, 60, 62
元寇 258, 259, 261

こ

弘安の役 259~261
神代(郷) 143, 206, 212
神代城(鶴亀城) 183, 212, 214
興善町 331, 332
『郷村記』 178, 179, 246, 298
国人一揆 165
国人領主 174, 175, 225, 311
御条目 81
籠手田 90, 99
五島(住人)
46~48, 59, 71, 86, 97, 122, 327, 343
『後藤氏系譜』 346, 348, 349
五島住人 47, 48, 59
五島西浦部(五島西浦目) 56, 57, 59

五島藩 53, 59, 343
 五島福江島 53, 63
 五分田銭 93, 94
 米奉行 94, 103
 『壺陽録』 6, 69, 70, 96
 五輪塔 331, 332
 コレジヨ 126, 194

さ

『西郷記』 206, 207
 西郷郡司 159, 170
 『西郷實実録』 206
 西国御家人 249, 262, 269
 棹浦 246
 相模鎌倉 271
 相良氏法度 83
 佐嘉領 320
 桜馬場ノ城→鶴城
 桜町 331, 332
 佐々(城) 69, 175
 「佐々木文書」
 143, 152, 161, 163, 166, 167
 薩摩 102, 103, 113, 185, 214, 356, 360
 薩摩国鬼界島 26
 三城(三城七騎籠) 311, 333

し

『志賀家事歴』 341
 志賀島 260
 (天草)志岐 102, 123, 195, 314, 327, 351
 鹿皮村 281
 志自岐神社 65, 74
 自治都市 339
 執権 266
 地頭(地頭館) 98, 245, 262
 地頭職
 160, 174, 206, 215, 243, 244, 253, 262
 地頭領主(制) 158, 175, 227, 311
 島原 183, 323, 324, 327, 329
 島原町
 319, 320, 322, 323, 325~328, 333, 334
 下松浦 46, 175

下松浦一族 33
 下松浦住人一揆契諾状 88
 下松浦党 33, 34, 48, 52, 53, 57, 59, 65
 住院 108, 126
 修道院 190, 194
 修道士 127, 223
 修練院 126, 194
 宿老→老臣

守護・地頭制度 267
 守護職 175, 294, 341
 主席老臣 114, 121, 322
 巡察師 184, 214, 216, 330
 春徳寺 309, 310
 小一揆 46, 47, 49, 59, 296, 297
 荘園公領制 143, 240
 城下町 310, 335, 351
 商館 104
 荘官(職) 206, 241, 262
 城塞都市 333, 334
 貞治元年一揆連判状断簡写 285
 小地頭 26, 153, 154, 158, 160, 255
 貞治二年(正平十八年)一揆連判状断簡写 287
 条々事書 224
 定使(職) 151, 240, 241, 243, 244
 少年使節 191
 『小右記』 9~11
 『新撰士系録』 304, 305, 307, 308
 新大工町 347

す

湄浦(杉浦) 246, 249~251

せ

征西府(征西將軍宮) 50, 51, 168, 295
 『政庁要録』 77, 79~81, 83, 84
 セミナリヨ 126, 194
 宣教師 87, 108~110, 115~117, 120, 122,
 124, 126, 127, 174, 190, 204
 戦国家法 77, 81, 85
 戦国大名 63, 75, 76, 107, 108, 112, 129,
 157, 174, 176, 180, 207, 217, 222, 224,

298, 299, 321, 324, 357
 戦国大名松浦氏 62, 77, 86, 96, 104
 『前太平記』 5

そ

早雲寺殿廿一箇条(群書類従本) 84
 惣地頭(職) 26, 153, 154, 158, 160~163,
 244, 249, 250, 253~255, 258, 281
 宗主権 227, 325, 326
 惣荘一揆 296, 297
 惣政所僧 240, 241
 惣領(家) 15, 24, 247, 269
 彼杵(荘)一揆(彼杵郡内一揆) 51, 166,
 169, 285, 293~295, 297, 298
 彼杵(荘)一揆連判状 293, 294, 305
 彼杵郡(彼杵荘) 19, 48, 77, 144, 145, 166,
 168, 169, 177, 178, 180, 185, 200, 240,
 241, 243~245, 253~255, 262, 281, 285,
 296, 298, 299, 304
 彼杵郡日宇(村) 50, 75
 彼杵郡福田村(福田郷) 225, 256
 彼杵郡南方一揆 169
 彼杵荘地頭代 284
 彼杵荘惣地頭 249, 254~256, 258, 281
 彼杵荘戸町(戸八)(浦) 246, 283
 彼杵庄南方地頭 281
 彼杵荘福田村地頭 259
 彼杵庄(荘)南方一揆 166, 169, 296, 297,
 305
 彼杵荘南方一揆連判状断簡写 294
 彼杵荘南方地頭 281
 彼杵庄(荘)南方内一揆 287
 『尊卑分脈』 8~11

た

大一揆 46~48, 59, 296, 297
 代官 178, 193~195, 199, 201, 207
 大智庵城 69, 74
 対朝通交(対朝貿易) 62, 66
 高来 194
 高来一揆 143, 163, 165~170
 高来郡 33, 34, 68, 143, 144, 147~149,

151, 152, 156, 163, 166, 168, 170, 175,
 177, 178, 183, 185, 211, 214, 227, 245
 高来郡南部(島原半島)

175, 179, 180, 185
 高来西郷(郷) 143, 144, 146~149, 151~
 156, 160~163, 165, 170, 203
 高来西郷伊福村(高来西郷内伊福村)
 149, 154
 高来西郷永吉名(——国方馬上檢注)
 149, 150, 154

高来東郷 143, 144, 146, 148, 149, 151~
 158, 160~162, 165, 170

高来東郷(有間荘)内深江浦(村) 153, 155
 高来東郷加津佐村 153
 高来東郷郡司 151
 高来東郷地頭職 154
 高来東郷荘 152, 156, 158
 高来東郷惣地頭 158
 高来東郷土黒村 154
 高来別符 147, 152
 高来北方一揆(北高来一揆) 143, 163~
 165, 167, 169, 170

鷹島 65, 74, 95, 102, 103
 『高島家系譜』 346, 348, 349
 『高島氏略系』 348
 高城(伊佐早城) 168, 203, 206, 207, 212
 高谷家由緒書 344
 高鉾島 318
 度島 90, 91, 95, 112, 122, 124
 多久城(梶峯城) 200~202
 武雄 115, 225, 311
 大宰府 5, 6, 23, 175
 多頭政治 224

ち

筑後川の戦 168, 169, 294
 『筑紫長崎縁起』 337
 千々岩荘 145, 152, 214
 千々石城(釜蓋城) 183, 214, 220, 221
 千々石村 194~199, 218
 中一揆 296, 297
 中国(人) 76, 100, 106, 118, 126

直轄地 178, 193, 194, 197, 199, 202
 鎮西九国奉行人(鎮西奉行) 26, 175,
 244, 249, 250, 254, 255, 281
 鎮西御家人 26, 35, 244, 258
 鎮西探題 149, 253, 266

つ

対馬 175, 294

て

手隈村(手隈野)
 240, 241, 243, 244, 266, 267
 鉄砲(鉄砲衆) 96~98
 田銭 94

と

戸石村(戸石町) 241, 279
 『道可公家世伝』 84, 85
 道可公御代御条目 81
 道可様御条目 82
 東国御家人 26, 213, 249, 258, 262
 唐船 314, 315
 頭人 335, 339, 340, 344, 348, 350, 351
 トードス=オス=サントス教会(諸聖人
 の教会) 309, 312~314, 351
 時津一族 297
 時津村(時津領) 281, 297, 349, 363
 歳宮 70
 年寄→老臣
 特権商人 102, 104
 戸町 249
 戸町浦 246~248, 250, 251, 283, 284, 311
 戸町浦地頭職 247~249, 253, 254
 戸町本主 249, 250

な

長崎(永埴)・——浦 123, 125, 129, 191,
 226, 239, 249~253, 262, 266, 285, 293,
 296, 303~305, 311~317, 319~322,
 324~328, 339, 340, 342, 343, 345, 346,
 348, 352, 353, 355~357, 359~363
 『長崎縁起』 310

『長崎縁起略』
 115, 308, 319, 323, 326, 337, 338
 『長崎縁起略評』 344
 長崎開港 317, 319
 『長崎開港以前欧舶来往考』 317
 『長崎開港史』 317, 318
 『長崎鑑』 325, 327, 336
 長崎港(湊) 183, 303, 310, 315, 316,
 318, 322, 334
 『長崎建立并諸記拳要』 315, 346, 348
 『長崎割記』 329
 『長崎市史』 317
 『長崎市史年表』 251
 『長崎実録大成』
 252, 309, 322, 323, 326, 334
 『長崎実録大成補遺』 309, 310, 323, 324,
 326, 328, 330, 335, 336, 338, 346, 348
 ~350, 362
 『長崎集』 251
 『長崎拾芥』 305, 330, 346, 350
 『長崎叢書』 304
 長崎頭人物代 339
 『長崎年来記録』 314, 324, 336, 355
 『長崎始由来記』 346, 347
 長崎奉行(所) 252, 325, 342, 363
 永埴本主 249, 250
 『長崎邑略記』 307, 309, 312, 319, 323,
 325, 328, 333, 337, 338, 351
 『長崎名家略譜』 304
 『長崎名勝図絵』 250, 314
 『長崎夜話草』 315
 『長崎略縁起』 252, 325~327
 『長崎略記』 307, 308, 319
 南蛮(衆・人) 97, 105, 120, 121, 316, 329
 南蛮船 75, 76, 89, 104, 106, 109, 111~
 113, 118, 120~125, 183, 184, 194, 225,
 317, 322, 352, 354, 362
 南蛮貿易 62, 117, 122, 181, 322,
 327, 360~362
 南蛮貿易港 123, 129, 225, 239, 303, 316~
 319, 321, 356, 363
 南蛮貿易偏重史観 318

に	
西郷郡司	149~151
西役所	310
『日本史』	183, 187
日本布教長	112
『日本要録』	330
仁和寺(京都)	158, 161
仁和寺仏母院	242, 253

は

パードレ	108, 353
博多	
111, 114, 126, 175, 260, 262, 277, 327	
博多警固番役	270, 271
博多談議所	275
『八幡宇佐宮御神領大鏡』	
147, 152, 158, 241	
伴天連	195
バテレン追放令	125, 126, 129
原城	177, 196, 197, 199, 215, 217~220

ひ

肥後	
206, 247, 271, 272, 276, 277, 294, 327	
土菌郷	144
肥前	99, 168, 175, 212, 267, 271, 294
肥前州上松浦	34
肥前州下松浦	34
肥前国守護(——職・代・所)	21, 160,
174, 176, 227, 258, 261, 267, 272, 280,	
282, 294	
肥前名護屋	339
肥前国	56, 105, 213, 277
肥前国伊佐早庄(莊)福田村	159
肥前国一宮河上神社(肥前国一宮河上宮)	
33, 144	
肥前国河副莊	32, 34
肥前国神崎莊	259, 261, 274, 278
肥前国杵島郡(北郷・南郷)	149, 181
肥前国御家人	12, 19, 174, 239, 243~
245, 248, 253, 260, 261	

『肥前国風土記』	143, 144, 212
肥前国横瀬浦(港・町)	114~117, 225,
308, 315~317, 322, 323, 326, 328, 338	
「樋田文書」	33
秀吉朱印状	100
人返し法	343, 346
日波(村)	281
日野江城(日之江城、ひの江城、火江城、	
日江城、日枝城)	177, 183, 188, 196,
197, 199, 203, 215~221	
紐差浦	63
『百練抄』	5, 151
白孤山城(勝尾岳城)	68, 98
日向高知尾明神	21, 23
平戸	14, 33, 64, 66~68, 70, 76, 77, 90,
91, 94~101, 103~107, 109~119, 121	
~127, 129, 179, 202, 225, 311, 315, 327	
平戸島	64~67, 90, 91, 99, 112, 115
平戸衆	96
平戸瀬戸	98
平戸船	120
平戸貿易	75
平戸町(平戸津)	
91, 97, 100, 322, 323, 326, 328, 329	

ふ

フィリピン	100, 106, 124, 125
深江(浦)	154, 251, 252
深江村(——地頭職)	153, 155, 157, 158,
160, 162, 213	
「深江文書」	153, 156, 160, 161, 253
深堀(村)	203, 239, 251, 311, 356
「深堀文書」	239, 245~250, 252, 254, 255
福田浦(福田港)	75, 117, 118, 120, 121,
123, 225, 303, 315~317, 321	
福田村	239, 244, 254, 266, 267, 358
「福田文書」	121, 200, 218, 219, 222, 225,
226, 240, 244, 252, 254~256, 258, 259,	
304, 305, 357	
深溝郡(北郷・南郷)	146, 159
藤津郡(——莊)	176~178, 185, 200,
213, 227, 255, 298, 339	

藤津荘沙汰人 243, 244
『藤原有馬世譜』 177, 181~183, 187, 215, 217, 221, 305, 307
豊前宇佐八幡宮神宮寺 242
測村 344
仏陀法 356
船越城 168, 207
船奉行 94, 103
フランススコ会員 124, 127
豊後 26, 92, 109, 111, 113, 114, 125, 222, 247, 277, 327, 341
「豊後大神氏系図」 21~23
豊後玖珠郡 275, 277, 278
豊後守護職 267
豊後国大野荘志賀村 341
豊後府中 267, 282
豊後府内藩主 342
文知町 322, 323, 326, 328, 331

へ

平家没官領 148, 160
『平家物語』 国立国会図書館本 4, 7, 21~23, 25, 31
別当 201, 336

ほ

封建都市 310, 350, 351
奉書(遵行状) 192, 224
外浦町 322, 323, 326, 328, 338
『北肥戦誌』 165~167, 169, 175, 177, 178, 217, 218
ポルトガル(商人・人) 77, 106, 108~111, 113, 116~122, 126, 127, 310, 314, 315, 333, 351, 362

ま

マードレ=デ=デウス号 183
マカオ 106, 125, 126, 360
町年寄 343
松浦上・下一揆 33, 35
松浦郡 6~11, 13, 17~20, 33, 34, 46, 51, 63, 77, 144, 177, 180, 185, 200, 343

松浦郡宇野御厨検校 6
松浦荘 11, 26, 33
松浦荘擬別当職 12
松浦荘執行職 12
松浦荘内早湊村 26
松浦氏領国 127
松浦史料博物館 77, 78
松浦党 3, 6, 7, 13, 14, 16, 18~22, 25~27, 31, 32, 34, 35, 50, 51, 58, 60, 63, 65, 69, 73, 77, 95, 98, 99, 129, 166, 167, 170, 175, 181, 271, 277, 294, 297, 343
松浦道可条々写 85
松浦藩 18
松浦東郷・西郷 33, 34, 145
「松浦文書」 158, 179, 222
マラッカ 106, 118
万才町 331, 332
万才町遺跡 315, 318, 331

み

御厨(荘) 35, 52, 68
三根郡(西郷・東郷) 146, 149, 180
箕坪城 68, 69, 98, 175
名代 267, 281

む

武蔵七党 3, 14
武蔵国稲毛本庄(荘) 148, 161
村田別符 147, 152

も

蒙古合戦勲功賞 162
茂木(村) 314, 320, 352~355
百路原 259
森崎 310, 312, 323

や

矢上(浦・村) 252, 253
矢上空閑城 207
矢上城 191
『屋代本平家物語』 4, 9
『耶蘇会史』 179, 330, 331

養父郡(東郷・西郷) 146, 149
山口 114, 327
「山代文書」 35, 40, 48~50, 55, 294
山田 206
山田郷(山田東西郷) 143, 146, 161
山田荘 144, 145, 147, 152, 153, 161, 162, 165

ゆ

湯浅党 3, 14
右筆 91, 92
百合野合戦 176, 181, 223

よ

呼子 52, 277

り

『李朝実録』 34
「龍造寺文書」 208~211, 320, 356

れ

『歴代鎮西志』 178, 183, 205, 215
『歴代鎮西要略』 5, 183, 204, 205, 207, 215

ろ

老中奉書(遵行状) 94
老臣(家老・国老・宿老・年寄・老中・老職) 68, 74, 86~91, 94, 99, 108, 110~112, 124, 125, 129, 187~193, 199, 200, 203, 213, 214, 224, 225, 341, 343
ローマ 214, 353
六丁町(六町・六丁ノ町・六丁町方) 239, 310~312, 314, 319, 321, 323, 325~327, 329, 331~335, 338~340, 351, 355, 361

わ

鷲巣城 177